

今年も開催！
まるごと吉野川「魅力再発見」講座

古くから吉野川との関わりによって育まれてきた文化・歴史・環境をテーマに、今年も「まるごと吉野川」魅力再発見講座を開催。活発に質問が飛び交い、意義深い講座となりました。もっと広い世代の方々に参加してもらえるように、来年度は少し趣を変えて開催の予定です。



第1回講座
日時：6月22日(日) 13:00～16:00
場所：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)5F小ホール
「吉野川流域の信仰と民俗」
講師：高橋晋一氏(徳島大学教授)
「吉野川流域の縄文～弥生時代」
講師：中村豊氏(徳島大学准教授)

第2回講座
日時：7月27日(日) 13:00～16:00
場所：徳島県教育会館5F小ホール
「戦国時代の河川と合戦～中富川の合戦を考える～」
講師：須藤茂樹氏(四国大学)
「吉野川下流域の中世城館～勝瑞城跡、その周辺～」
講師：重見高博氏(藍住町教育委員会)

第3回講座
日時：9月20日(土) 13:00～16:00
場所：とくぎんトモニプラザ(青少年センター)3F大会議室
「古代中世の吉野川」
講師：福家清司氏(徳島県埋蔵文化財センター理事長)
「古代の荘園と吉野川～阿波国名方郡東大寺荘園を事例に～」
講師：三河雅弘氏(國學院大学・兼任講師)

◆ 平成26年度総会
平成26年5月30日、ホテル千秋閣で開催した平成26年度吉野川交流推進会議総会において、事業計画等を協議いただきました。また、アドプト・プログラム吉野川に参加し、2年以上活動を継続し、かつ初めて再度の合意書を締結した団体・企業等に感謝状を贈呈しました。今年度の事業計画は左記のとおりです。

◆ 交流事業
◆ アドプト・プログラム吉野川の推進
◆ 子どもとの交流体験事業の実施
◆ 地域イベントとの交流事業の実施
◆ 三大河川交流事業の実施(流域間交流事業)
◆ 国土交通省との共催事業の実施
◆ インターネットによる交流事業の実施・充実

◆ 情報発信事業
◆ 機関誌「四国三郎吉野川」の発行
◆ インターネットによる全国への情報発信
◆ 各種イベントでの活動のPRと会員募集
◆ 「恵みの宝庫『吉野川』創造プロジェクト」との連携事業の実施

◆ 会員の募集
◆ イベント等で入会案内を配布し、新規正会員、賛助会員を募集



**吉野川に今年も三河川が
集結！交流を深めました**
三河川交流は今年も吉野川から。7月26日、真夏の吉野川フェスティバルに利根川、筑後川のメンバーがやってきました。笑顔で再会を果たしたメンバーは、「三大河川のお国自慢対決」と題して、それぞれの川や地域の特徴、流域での活動などをPR！吉野川チームは、源流域の嶺北からも応援にかけてくれました。殿様連の勇壮華麗な阿波おどりを堪能した後は、待つてきました！とばかりみんなで乱舞が始まりました。集まるたびに踊っているからか、利根川、筑後川のメンバーの踊りも板についたもの。阿波おどりで流した汗は、ピアガーデンで補給。夕暮れの河畔で心ゆくまで語り、親睦を深めました。



9月27日・28日には「第28回筑後川フェスティバル in 大刀洗(福岡県)」に吉野川チーム27名が参加。三大河川交流会や筑後川中流の歴史遺産めぐりツアーなどで交流を深めました。また、11月6日・7日には16名が「利根川流域交流会(群馬県)」へ参加し、八ッ場ダム建設現場を見学したり、「水辺におけるまちづくりと地域振興」をテーマにそれぞれの地域での取り組みを発表。「来年の夏、また吉野川で！」と約束して帰郷しました。



ハッ場ダム建設計画地を臨む

三大暴れ川の仲間を紹介しまあ

第1回 ともに日本三大暴れ川と称される兄弟河川をシリーズで紹介していきます。

坂東太郎・利根川

利根川は、大水上山を水源として関東地方を北から東へ流れ、太平洋に注ぐ日本最大級の河川です。流路延長は322km、流域面積は1万6840km²にも及び、首都圏の重要な水源となっています。



風情ある蔵の街遊覧船

◆ 巴波川(うずまがわ)
栃木県栃木市の中心を流れる利根川水系の渡良瀬川支流の二級河川。「ウズを巻き、波を立てて流れる」という昔はかなりの暴れ川でした。江戸時代には江戸との舟運に利用され、栃木と江戸を結ぶ重要な水路でした。中世から江戸川と通じた舟運の盛んな川で、栃木市内には蔵造りの建造物が多く残り「蔵の街」として親しまれています。舟運の始まりは、江戸時代に徳川家康の霊柩を久能山から日光山に改葬した際に、日光御用の荷物を栃木河岸に陸揚げしたことが端緒であります。その後、物資の集散地として江戸との交易で隆盛を極めました。



谷川岳

◆ 源流の町・みなかみ町
日本百名山の一つ谷川岳。春から夏にかけては貴重な高山植物の楽園となり、秋は幻想的な紅葉、冬には極上のパウダースノーでスキーを楽しめます。また、ロープウェイとリフトを利用すれば誰でも

筑紫次郎・筑後川

筑後川は、その源を熊本県阿蘇郡瀬の本高原に発し、高峻な山岳地帯を流下して、日田市において、くじゅう連山から流れ下る玖珠川を合わせ典型的な山間盆地を流下し、その後、夜明峡谷を過ぎ、佐田川、小石原川、巨瀬川及び宝満川等多くの支流を合わせながら、肥沃な筑紫平野を貫流し、さらに、早津江川を分派して有明海に注ぐ、幹川流路延長143km、流域面積2860km²の九州最大の二級河川です。



赤谷湖

◆ 上流の観光資源
筑後川上流には阿蘇くじゅう国立公園の火山地帯の黒川温泉などの温泉群や、豊かな森林に恵まれた山間峡谷には多くの滝が存在し、訪れる人々を魅了しています。その中心である日田市は「水郷日田」として昔から川との係わりが深く、江戸時代からの町並が残る豆田町、隈町及び日田温泉や祇園祭など天領としての面影を残しています。



◆ とりで利根川大花火
「とりで利根川大花火」は1930年に茨城県と千葉県を結ぶ国道6号の橋である利根川大橋の開通を記念して始まり、以来、60回を超える長い歴史を誇る花火大会として毎年多くの人々が県内外より訪れ、雄大な利根川沿いに広がる自然豊かな河川敷を音楽に合わせた色とりどりの花火が埋め尽くします。特にファイナルの創造花火は必見です。



絹ヶ滝

◆ 中流の観光資源
筑後川中流では、九州一の穀倉地帯筑紫平野を蛇行しながら流れ、古代より人々に多くの恵みをもたらした、装飾古墳群など歴史



↑筑後川昇開橋。国の重要文化財に指定されている
→吉野ヶ里遺跡

◆ 下流の観光資源
筑後川下流は、国内最大の干満差を有する有明海の潮汐の影響を受け約23kmもの長い汽水域を持ち河岸には干潟が形成されるなど、独特の環境を有し日本でもここだけの貴重な魚類等が生息しています。家具産地として有名な大川市には筑後川昇開橋や古賀正男記念館などがあり、風浪宮や佐賀県の吉野ヶ里遺跡などとともに歴史の宝庫です。



高良大社(久留米市)

River Diary

H26
1/19 春よ来い! 四季彩マラソン
ロードに蜂須賀柁を植樹

とくしまマラソンのコースである吉野川の堤防を桜並木や四季折々の花で彩ろうという「四季彩マラソンロード」。3回目となる今年は、北岸・生光学園南側の堤防に植樹。徳島眉山ロータリークラブの皆さんの手で大切に育てていただきます。



7/25～27 吉野川フェスティバルでPR

吉野川フェスティバルにブースを出展。三大河川の写真パネル展示やてまわしこまdeアートなどを楽しんでもらいました。また、機関誌を配布し活動をPRしました。

8/20 おさかな博士の川魚かんさつ

交流体験 in よしのがわ(下流編)は佐藤陽一さん(県立博物館学芸員)を講師に、鮎喰川で川魚観察会。県内の小学生親子19名が魚の観察や川遊びを通じて川に親しみました。あわせて、小谷寛二先生の指導で水難事故防止について学びました。

